

茶ぐわく ゆんたく



お茶を飲みながら、
ぎのわんの歴史を
のぞいてみませんか？

今年度のテーマは「娯楽」。今回は第3回です。

みんなで応援！甲子園初出場？

時は2002（平成14）年、7月21日、場所は真志喜公民館。この日はちょうど、真志喜の綱引き綱の縄打ち作業のため、区民の皆さんが集まっていました。

同日の全国高等学校野球選手権大会沖縄大会の決勝は、中部商業高校VS沖縄水産高校。地元・宜野湾にある高校の選手達が甲子園に行けるかどうか、という大一番だからでしょうか、縄を作る手を止めてテレビの画面に見入っています。

もともとこの写真は、「市内民俗芸能調査事業」の一環で市内の綱引きの調査を行った際に撮影された、大量の写真の中の一枚です。縄打ちの様子を記録するために撮影したのですが、期せずして、高校球児達の戦いぶりを息を詰めて見守っている気配をも写し取った写真



▲写真1：2002年7月21日 真志喜公民館
縄打ち作業を止め、テレビをくいいるように見ている

となっています。

中部商業高校は、教育の機会均等と商工業の発展に対応する人材育成のため、中部地区に職業教育機関を、という地元の要請のもと、1965（昭和40）年に琉球政府立の高校として開校しました。しかし、この件に関して米国民政府側は、那覇での敷地選定や、高校の運営や性格を米国式にすると示唆し、正式な設置まで住民達に気を揉ませた経緯があります。米軍統治下における、教育の自治の困難が表れた案件の一つでした。

スポーツ観戦も娯楽の一つですが、ことに「甲子園」すなわち「全国高等学校野球選手権大会」に出場できるか否かで毎年盛り上がりがあります。この大会に沖縄県勢が初めて出場したのが1958（昭和33）年。この時、選手達が持ち帰った「甲子園の土」が当時の植物防疫法に触れるとのことで海に捨てられたエピソードは有名です。それから44年、中部商業高校の開校から37年、宜野湾市民が見守る中、選手達は決勝戦を制し、見事、甲子園初出場の切符を手にしました。



▲写真2：中部商業高等学校 創立当時の校舎(1965年)

はくぶつかん情報

〈博物館ロビー展開催！〉

「半世紀余りの時を経て」

〜平和祈念像原型復活にむけて〜

普天間にある、高さ10メートル・重さ約71トンの平和祈念像原型を、曳家^{ひきや}で移動させた記録を写真パネルで紹介しています！

▼日時 8月15日（土）～9月28日（月）
▼場所 市立博物館 展示ロビー
▼入場 無料

〈市民講座受講生募集！〉

「堆錦技法の技と魅力」

琉球漆器などの加飾技法の一つであり、普天間の平和祈念像原型にも用いられている「堆錦」について、その魅力をお話します！

▼講師 糸数政次^{いとすけ まさむね}
（浦添市美術館 館長）
▼日時 9月6日（日）
14時～16時（受付13時半）

▼場所 市立博物館2階 研究室
▼参加費 無料
▼定員 40人

▼申込期間 8月16日（日）9時～
※定員に達し次第、締め切り

※講座のタイトル等とは変更となる場合があります。詳しくはホームページをご覧ください。

問 市立博物館 ☎870-9317

※休館日：火曜日・祝日

※開館：9時～17時

（最終入館は16時半まで）